



## 等妙寺旧境内、国史跡に指定

### 等妙寺調査の経緯と経過

### 等妙寺の位置と範囲

中野川・芝地区に所在する等妙寺旧境内は、昔から旧等妙寺としての存在が知られており、地元の方々から遺跡の保存と活用に対する強い要望があったところです。保護を目的としたこの遺跡の調査は、平成3年度から平成5年度の遺跡詳細分布調査から始まりました。調査の結果、戦国時代末期に焼失したこの寺が、地域住民の心のよりどころとなり、開発されることなく守られてきたことから遺構および出土遺物の保存状態が極めて良いことが明らかとなりました。そこで、平成6年度から現在に至るまで約14年間、遺跡の保護と全容を明らかにするために発掘調査や文献調査など様々な調査を実施してきました。これまでの調査の結果、等妙寺旧境内の当時の姿やその輪郭が徐々に判明し、全国的にも貴重な遺跡であることから、平成20年3月28日に国の史跡として指定されました。

等妙寺旧境内は、町の南西部に位置する高月山（標高1229m）を最高峰とする鬼ヶ城連山のうち、郭公岳（標高1010m）の中腹から麓にかけて位置しています。郭公岳の中腹にある20箇所余りの平坦部がこの寺の中心域で、麓にある現在の等妙寺（当時の靈光庵）からつながる谷筋の空間が現状で把握される旧境内の範囲であると考えられます。また、現在の等妙寺から1kmほど下るとそこには奈良川にかかる等妙寺橋があり、この橋から南北に続く道程が参道であると考えられます。

寺域や行場（修行を行う区域）を伝える記録は残念ながら見つかっていませんが、山岳にかけて関連地名や伝承が残っていることから、行場や信仰遺跡が広く存在していたものと推測されます。